

■第2回会議における各委員からの主な意見■

- ・市庁舎の窓口業務としては、今後割合が増加する高齢者の利用しやすい施設整備が必要。
- ・(旧来からの) 近隣自治体の庁舎と比較するのではなく、市として客観的な視点を持って整備することが求められている。→市としてのコンセプトが必要である。
- ・上位概念(コンセプト)をはっきりさせておくことは、大切なことである。
- ・入間市らしさを示した方が良いのではないか。
- ・施設のあり方から見直し、その結果施設機能の複合化が図られれば、公共施設マネジメントのモデル事業になるのではないか。これは、今後のマネジメントにも大きな影響力を持つ。
- ・これまでの意見交換の中で、市庁舎は「コミュニティの拠点」、「まちづくりの拠点」というコンセプトが見えてきたようだ。
- ・これまでの市役所は、オフィス機能が中心で、市民を迎えるという面では、あまり考えられていない。
- ・市庁舎には、災害時の防災拠点として、必要な機能を備える必要がある。
- ・市民の情報を預かっているため、防犯面も強化する必要がある。
- ・市庁舎には、「オフィス機能の高い施設」、「安心・安全な施設」、「利用勝手の良い施設」の視点は外せないのではないか。
- ・「安全・安心」と「地球環境にやさしい」は、1つにまとめることが可能ではないか。
- ・コミュニティの拠点であり、防災の拠点であるということも含め、(HEMSの考え方で) 市政に関心を持ってもらう仕組みを備えることも必要である。
- ・日本流のコスト第1主義に捉われず、長く使い続けられ愛着を持ってもらうことも重要ではないか。
- ・長く使い続けられるように、変化に柔軟に対応できる工夫も必要である。